

11月号の内容

「2008年全米経済教育協議会(NCEE)年次大会」報告 金融危機の中だが、全世界への拡大を示しつつ

去る10月7日(火)～12日(日)、アメリカ合衆国はミシシッピ州の、ガルフポート・ピロキシを会場として「2008年全米経済教育協議会(NCEE)年次大会」が開催されました。本号では、そのポイントをレポートいたします。

特集 「2008年全米経済教育協議会(NCEE)年次大会」報告 金融危機の中だが、全世界への拡大を示しつつ

昨年も取材しておきながら報告できなかったNCEEの年次大会を、今年こそはお伝えいたします。



概要

例年、NCEEの年次大会は、10月初旬から中旬にかけて開かれます。今年は、10月7日から12日にかけて、ミシシッピのガルフポート・ピロキシで開かれました。ミシシッピ川流域ではなく、あのハリケーン・カトリーナで被害を受けたメキシコ湾岸の一都市です。昨年、コロラド州のデンバーでしたので、少し涼しく、あるいは適度の気温でしたが、今年は打って変わって、南国。来年は、5年に一度のワシントンD.C.で開かれる予定です。

さて、大会テーマは「機会を素早く捉えろ！」です。ミシシッピ州の協議会が、金融経済リテラシーの向上に、まさに機会を逃さず取り組んできたためこのテーマがもっともふさわしいというわけです。

ただし、同時にNCEEのここ20年近くの営為を自画自賛したともいえるでしょう。ソビエト崩壊、東欧の市場化に伴い、NCEEは「移行期の経済教育」で多くの成果を上げ、現在も、東欧、中央アジアなどに移行経済の支援を続けています。

90以上の分科会、10のポスターセッション。全体会は2回。NCSS(全米社会科学教育協議会)に比べれば規模は小さいとはいえ、経済教育を見渡すには十分な数です。

筆者は、1995年のハワイでの大会以降、ワシントンD.C.、アイダホ、ジョージア、デンバー、テキサスと参加したり、発表したりしました。休憩時間に、これでもかという大量のスイーツ、催し物付きの宴会でもウンザリするような大量飲食物に特徴がありますが、今年は、映画のフォレスト・ガンブがエビ漁をしたロケ地ということもあり、シーフード(といってもシーフードはエビだけ)



様々な経済教育教材や政府機関、NGOの出店



内容

さて、大会内容についてです。全体会、分科会、課題研究がありますが、今回は、全体会の素描のみです。

従来、全体会では、マンキューやブラインダーなど有名な経済学者が講演してきたわけですが、ここ近年はスポンサー企業の重役が講演をしており、今年はスポンサーである State Farm Insurance Cos. (車ローン、モーゲッジ、譲渡可能定期預金証書などを主軸にした大手保険金融会社)の上級副社長が講演しました。まさに金融危機ともいべき時の開催。ここでは具体的な教材への支援をしたことを中心にNCEEへの貢献について話されました。その前には、州選出の上院議員と州知事の講演もありました。

二日目には、NCEE 会長兼最高責任者のデュバルが、「機会の把握—総括」の講演をしました。NCEE が、「世界に拡がり、前進しつつ、卓越して効果的な経済教育」を推進していることを自讃。経済金融リテラシーのキャンペーンの成功、必要な目標としての「プログラムの質、市場の可視化、金融の安定」などをあげました。ここ最近の成果として、Council for Economic Education、場所、教材刷新、ロゴ変更、全米経済金融教育センターへの教材やセミナー、オンラインでの platform など毎年の成果と刊行物の紹介と今後の焦点としてのグローバル戦略が話されました。経済学教育の国際的状況への関心が言及されており、AEA (米国経済学会)の教育部門が来年正月早々、米日韓の比較会合を開くことと関連しているのかもしれませんが。また、Latin America への経済教育支援プログラムが試みられていることも加えられます。これも、米国の世界戦略の一環なのでしょう。

十分に詳細は公開されておりませんが、Council for Economic Education ということは、米国にとどまることなく、「全世界の・・・」ということなのでしょう。確かに、旧ソ連、東欧、中央アジアにはそのランチとおぼしきものがあり、日本にも JCEE が、ジュニアアチーブメントの日本支部の中に創設された点からも、全世界の組織化が想定されます。

なお分科会については、NCEE の HP に概要の展開があります。

http://www.ncee.net/news/story.php?story_id=144

今年も、早稲田大学の山岡道男先生のプロジェクトで、浅野忠克先生(山村女子大) スティーブンリム教授(ニュージラード・ワイカト大学)、金景模教授(慶尚大学校師範大学)が大学生の経済リテラシー多国間調査を報告されました。

各分科会の特徴として、HP では次のことが挙げられました。

- ・最新のカリキュラム開発、教材、教育方法、新しいプログラムと最良の実践。
- ・幼稚園から高校までの教師のための専門的能力の開発ワークショップと会合。
- ・現在の経済のトピックの上の傑出した話題提供者。
- ・経済教育者と幼稚園から高校までの教師とその分野に興味を持つ人たちのネットワーク機会。

その内容については、別報で報告します。



デュバル会長の講演



デイ教授(インディアナ経済教育協議会長)のプレゼンテーション

最後に、インディアナ大学ココモ校の経済教育センターのアシスタント・ディレクターで、教育部門の助教授である小川正人さんにお会いしたことを報告します。おそらく、日本人初のNCEEの経済教育センターのアシスタント・ディレクターではないでしょうか。日本では経済学部を卒業され、米国ではバージニア大学で教育学博士を取得され、歴史教育が専攻ということだそうです。インディアナ大学は、州の南方のブルーミントンが本校ですが、ココモは州都インディアナポリスの近郊にあります。活躍を期待したいところです。

報告者 猪瀬武則（弘前大学教育学部教授）



ロールプレイ教材の実習（参加した小中高校の先生方）

経済教育ネットワークとは？

経済教育を実践しているさまざまな個人や団体を、ゆるやかなネットワークの下で結びつけ、それぞれの教育活動の向上を支援するもので、特に経済教育に関する情報の収集・発信の面で日本におけるワンストップ・サービスの提供をめざす任意団体です。ぜひご参加いただき、積極的に活用していただければ幸いです。

Network for Economic Education

月報・経済教育をネットワークに！

月1回月末発行
発行人・篠原総一
編集人・猪瀬武則

経済教育ネットワーク
101-8360 東京都千代田区三崎町 1-3-2 日本大学経済学部 2号館
Tel: 03-5259-9070 / Fax: 03-5259-9075
メール: contact@econ-edu.net

経済教育に関する情報の収集と発信で
ワンストップ・サービスを提供する

<http://www.econ-edu.net>

後記

今号は、NCEEの年次大会の全体の様子のみをお知らせしました。次号では、分科会に触れると共に、NCEEの最新の教材開発の状況や移行経済圏での活動状況、また、米国経済教育学会で唯一の日本人スタッフである小川正人さんへのインタビューなどを掲載したいと思います。

なお、本編でも触れましたが、来年1月の全米経済学会 **American Economic Association** で、山岡教授、浅野講師、阿部准教授らが韓国人教員らと共に、国際会議があると伺っております。これまでの経済リテラシー調査の基盤として、各国の経済学部のカリキュラム

構成などの比較を行おうとするもので、意義深い結果が生まれることと推測します。また、本編で触れた **Council for Economic Education** についても詳細を追っていきたいと思います。(猪瀬)